自己評価Ａと外部評価の評価区分	きわめて良好	自己評価Ｂの評価基準	５	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対して１００％達成
	良好		４	実現状況は良好で意識も高い／数値目標に対して８０～９９％以上達成
	おおむね良好		３	実現状況はおおむね良好／数値目標に対して６０～７９％以上達成
	やや不十分		２	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対して４０～５９％
	努力を要する		１	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対して３９％以下の達成

ア
生徒の
状況

Ⅰ　自主的・自律的な生活

生徒の状況		自己評価Ａ	運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
仲間を大切にしながら、礼儀正しいあいさつと規律ある生活を送ろうとしている。	前期	おおむね良好	良好	あいさつはできていると思われる。さらに向上させるためにも、あいさつの意味や意義を指導して欲しい。また、悩みを抱える生徒や保護者に、関係機関と連携しながら適切な対応を継続してほしい。
	後期	おおむね良好	良好	あいさつは前期と変わらず良好である。生徒の居場所がある学校を創り上げており、多くの生徒が楽しく学校生活を送っている。悩みの多い時期なので、引き続き一人一人を大事に指導してほしい。

自己評価の概要と学校の改善策

【前期（→年度）】
　生徒質問項目２のあいさつについて、今年度は「誰が見ても」という文言を加えた。あいさつが相手目線であることを意識したことによって数値が下がったものと思われる。本校生徒はあいさつはしているが、「その場に応じた声」「表情」など相手目線で行うことを意識している生徒はまだまだ少ない。今後は、あいさつでは相手のために声や表情を意識させていきたい。そのために、一人一人が安心して自分を表現できるような環境にできるよう、学級経営や授業に励んでいきたい。また、時間や清掃への意識を高めることで、集団に対しての利他的な思いを高めたい。

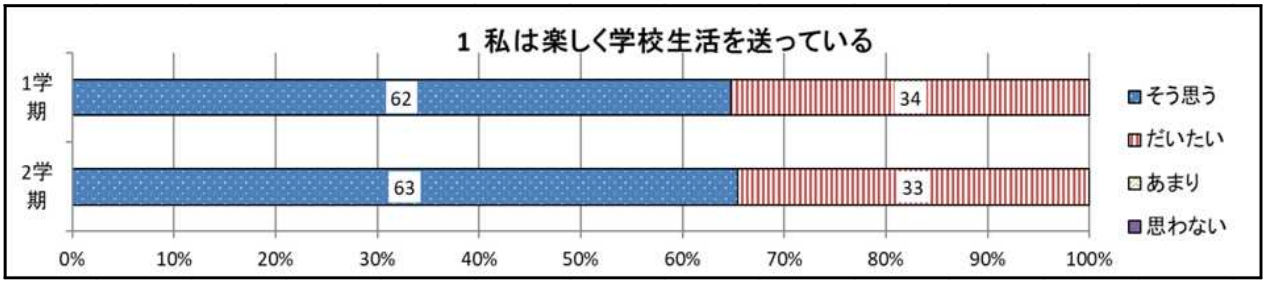
【後期（→次年度）】
　生徒質問項目１において、楽しく学校生活を送っている生徒が多いことがうかがえる。今後は、あいさつや清掃、時間厳守の本質を理解できるように徹底することで、相手や集団のことを考えて行動できる生徒が増えるように働きかけていきたい。そうなることで、もっと深い意味で楽しく学校生活を送っていると実感できる生徒が増えるようにしたい。
　また、不安を抱えている生徒の気持ちに寄り添って支援していくために、毎月の振り返りなどを活用して、迅速に対応していきたい。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価Ｂ 前期	自己評価Ｂ 後期
１基本的な生活習慣	(1) あいさつや清掃など共通理解に基づいた指導	年間を通したあいさつ運動　清掃指導	３	３
	(2) 自律的な学校生活	生活のきまりの厳守 時間の意識化（ﾒﾃﾞｨｱｺﾝﾄﾛｰﾙ）		
２相談活動の充実	(3) 生徒指導の三機能を生かした指導	教育相談　人間関係づくりの推進	３	３
	(4) 積極的な生徒理解と連携	毎月の振り返りアンケート 保健室・家庭との連携 ＳＣや外部機関との連携		

【評価指標１】基本的な生活習慣

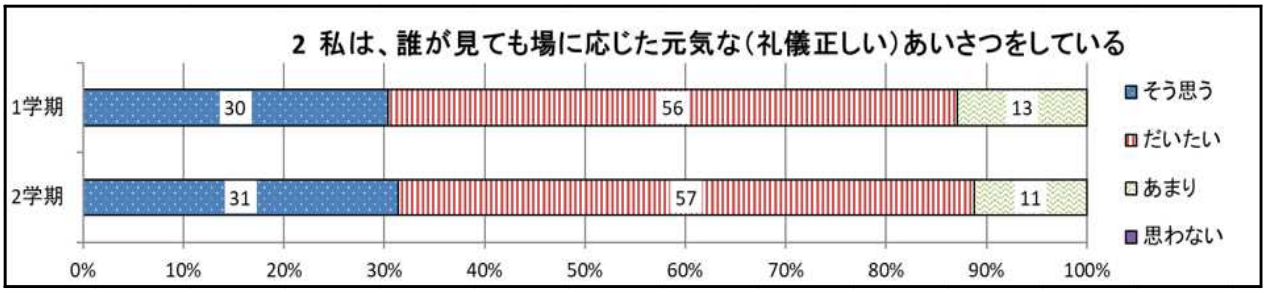
生徒

１学期
3.58
↓
２学期
3.59



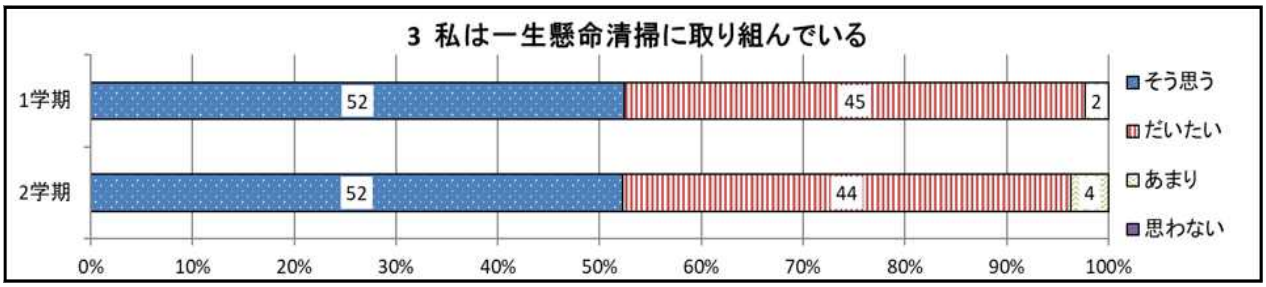
生徒

１学期
3.16
↓
２学期
3.18



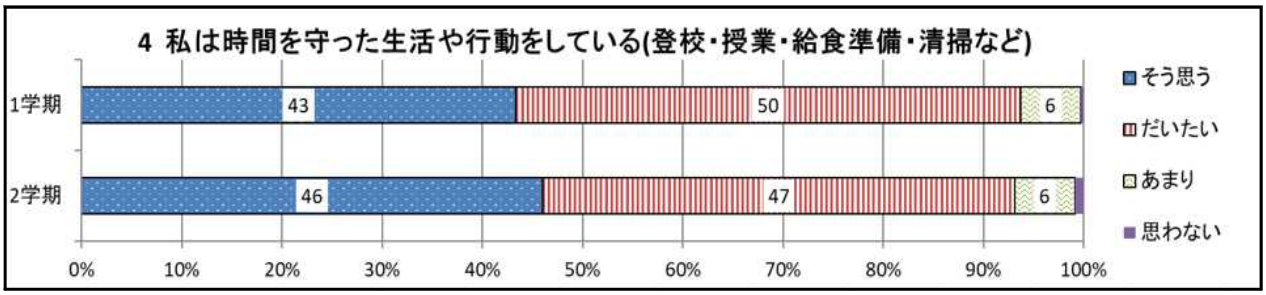
生徒

１ 学 期
3.50
↓
２学期
3.49



生徒

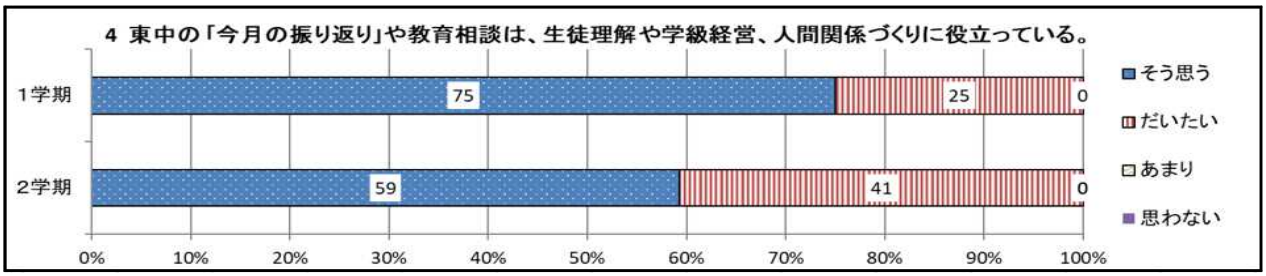
１学期
3.37
↓
２学期
3.38



【評価指標２】相談活動の充実

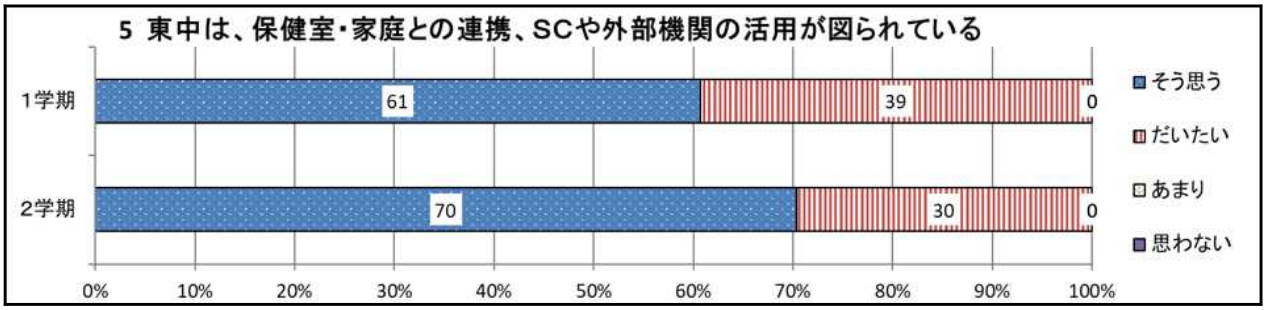
教師

１学期
3.75
↓
２学期
3.59



教師

１学期
3.61
↓
２学期
3.70



Ⅱ　思いやりとたくましい心

生徒の状況		自己評価Ａ	運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
互いに認め合い、切磋琢磨しながら、一人一人がよさを発揮し、豊かな学校生活を送ろうとしている。	前期	おおむね良好	良好	前期はボランティアの機会が少なかったための結果であり、後期は増えることを期待している。経験の少なかった生徒のモチベーションを上げる働きかけも必要である。
	後期	おおむね良好	良好	後期の活動を見ると、生徒は自主的に動けているし、積極的でもある。また、素直で思いやりがあり一生懸命である。今後は学校のボランティアのボリューム感を考慮し、町内会長との打合せを密にしてほしい。

自己評価の概要と学校の改善策

【前期（→年度）】豊かな体験活動については、生徒質問項目1において数値が昨年度よりも上昇した。コロナ禍が明け、制限無く教育活動ができるようになったことで、生徒の充実感につながったと思われる。しかし、生徒質問項目６、７については、昨年度比で数値が下がっている状況である。特に生徒質問項目７については、１学期中に職場体験や大館PRが行われたにも関わらず、結果が芳しくない。後期に向けては、各行事のねらいを明確化し、「生徒にどんな力を身に付けさせたいのか」「行事後に生徒がどのような姿であればよいのか」を考えながら、活動の計画立案に努めたい。

集団生活の向上についても、生徒質問項目５、８、９において、昨年度よりも数値が下がっている状況である。特に質問項目９については、減少幅が大きい。東中三大自慢に関わる行事が２学期に集中しているため、１学期の評価が低めになるのは例年通りの傾向ではあるが、今回のアンケート結果から、東中三大自慢に関しての生徒の意識が低下している現状があると捉える。２学期の各行事においては、前述の通り、ねらいを明確化し、生徒に達成感を味わわせられるような行事の計画立案を行うことはもちろん、次年度に向けては、年間を通して、生徒の意識向上が図れるような適切な行事設定を行う必要があると考える。

現在の中学生は、非常に多忙な毎日を送っている。その中で充実感、達成感を味わわせるためには、行事を増やすのではなく、やるべきことを精選し、コンパクトで効果のある行事をいかに設定できるかを我々が考えていかなければならないと感じる。

【年度（→次年度）】評価指標３、４ともに肯定的な回答をした生徒が80%以上を占めており、日々の取り組みや学校行事が生徒にとって有意義であったことがうかがえる反面、前期より数値が下がってしまった項目もあり、引き続き改善が必要だと感じる結果となっている。特に、生徒質問項目６においては、肯定派の生徒も60%代と他の項目と比較しても数値が低くなっている状況にある。

本校では、ここ数年、東中ボランィアや子どもハローワークを中心とした体験活動を展開してきたが、本校の体験活動が生徒にとって魅力に欠ける活動になってしまっていることが数値が下がった原因ではないかと考えられる。ボランティア活動は生徒と町内会長さんとが相談し、活動内容を決めて実行するものであるが、内容が例年通りの町内も多く、新鮮味に欠ける状態になっていることも否めない。また、町内会員の高齢化によりボランティア活動を辞退する町内も増えてきており､活動を継続することが困難になりつつある。

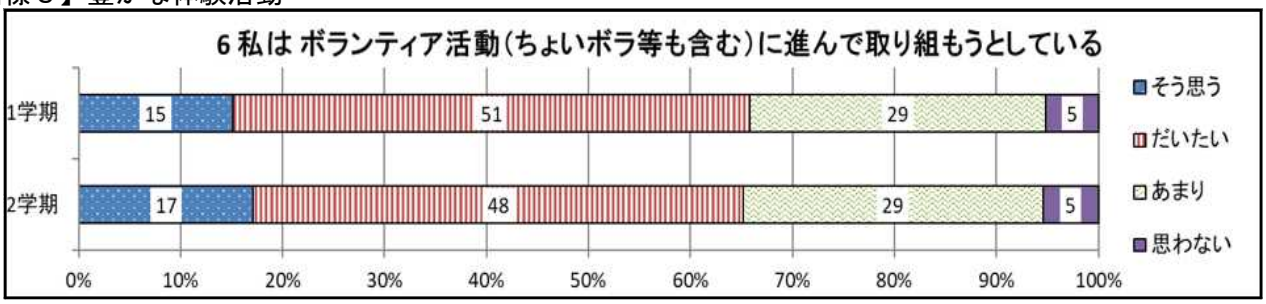
次年度に向けては、生徒が主体的に活動できるよう「必要感」が感じられるような行事設定と、活動後の「充実感」が感じられるような価値付けを大切にしながら、行事の企画運営に努めていきたい。また、今年度は落ち葉拾いボランティアや生徒会主催のゴミ拾いボランティアなど単発の活動がいくつかあったが、生徒や職員の負担にならないことを前提に、次年度も生徒のニーズに応じた活動を展開してきたい。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価Ｂ 前期	自己評価Ｂ 後期
３豊かな体験活動	⑸ふるさとに根ざし、自立の気概を育てる指導。地域、郷土愛の醸成	東中ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ、きりたんぽ祭りﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ 子どもﾊﾛｰﾜｰｸへの参加 職場見学、職業講話：１年生 職場体験学習、大館PR活動：２・３年生	３	３
４集団生活の向上	⑹よりよい生活や人間関係の構築	学校教育活動全体を通した道徳教育 学級ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ・係活動での一人一役 集会などの話合い	３	３
	⑺共感的協働力を高める集団活動。愛校心の醸成	東中太鼓の伝承 心一つに響き合う歌声活動 学校行事や生徒会行事の充実		

【評価指標３】豊かな体験活動

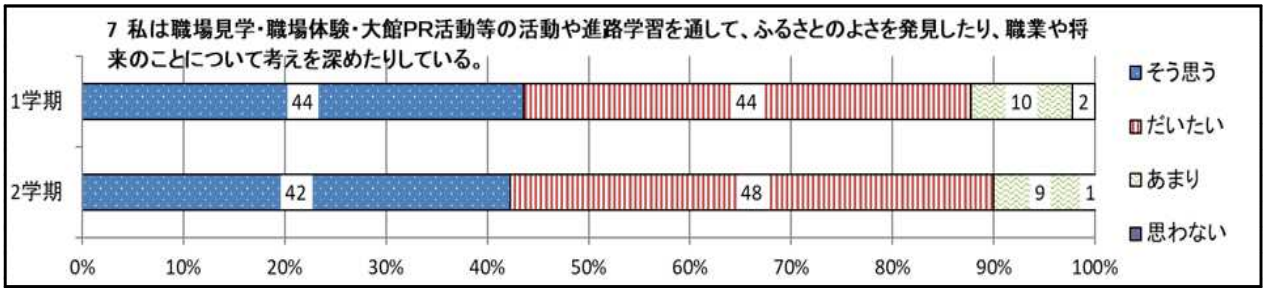
生徒

1学期
2.76
↓
２学期
2.77



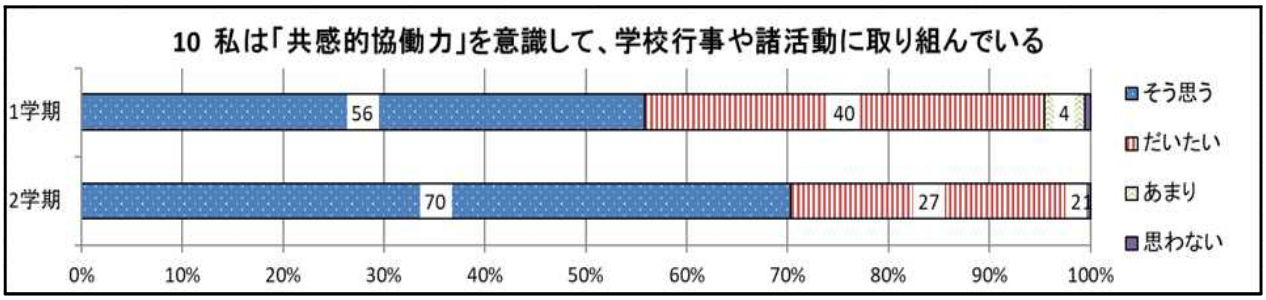
生徒

１学期
3.29
↓
２学期
3.31



生徒

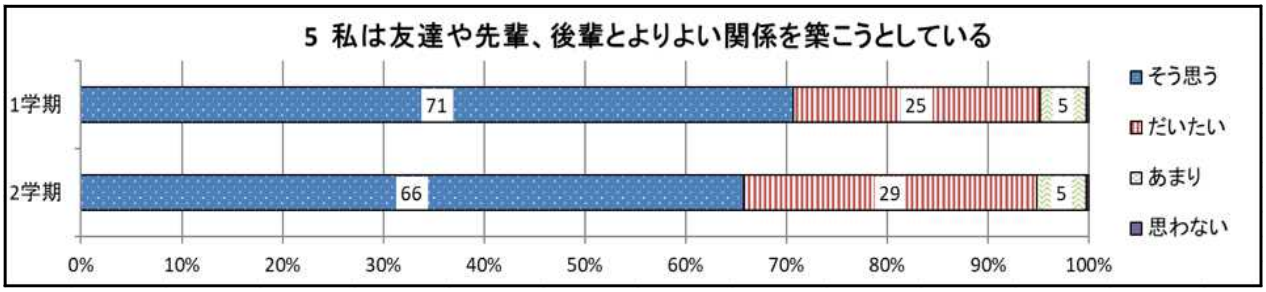
１学期
3.51
↓
２学期
3.67



【評価指標４】集団生活の向上

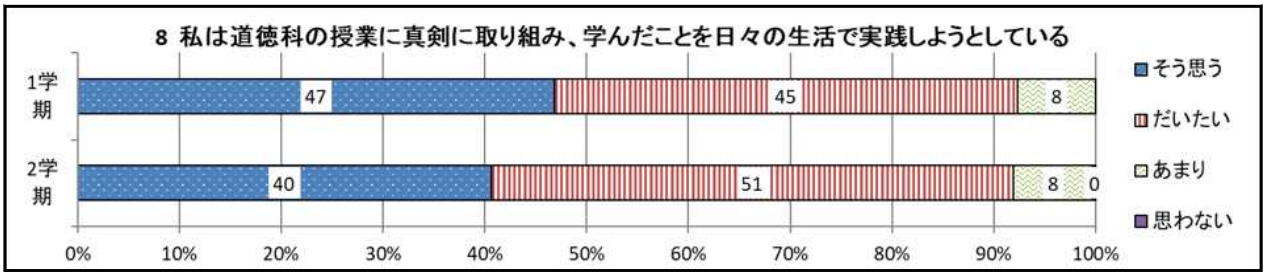
生徒

１学期
3.66
↓
２学期
3.60



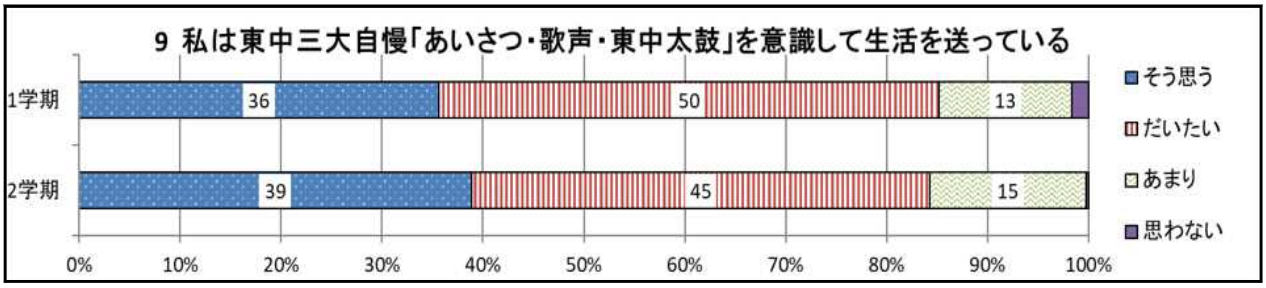
生徒

１学期
3.38
↓
２学期
3.30



生徒

１学期
3.19
↓
２学期
3.23



Ⅲ　基礎学力

生徒の状況		自己評価Ａ	運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
基本的な学習習慣を身に付けている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	メディアコントロールについては、医学的なエビデンスに基づく指導が必要ではないか。また、生徒自身がタイムマネジメントすることが大切であり、スマホのモニター使用時間の可視化させ非生産的な時間を知らせることも必要と考えられる。
	後期	おおむね良好	おおむね良好	今後、メディアは無くてはならないツールになる。無理に押さえるのではなく、メディアの有効性と正しい使い方を教えるとともに、生活習慣等の視点から上手な付き合い方の指導を重視してほしい。

自己評価の概要と学校の改善策

【前期（→年度）】

生徒質問項目11では、全校の肯定的な意見が86%と多く、生徒が意識して授業に取り組んでいる様子が伺える。しかし昨年度よりも数値が若干下がった。これは、質問の内容が「学習ルール」から「東中学び方の約束(別紙参照)」に変わったことも影響していると考えられる。

教師質問項目13「東中スタンダードを意識した授業」では教師全体の肯定的意見が96%、さらに数値も上がっている。これは教師が常に学習規律を意識して授業を行っていることが伺える。今後も節目節目に生徒と学び方を確認し、指導の徹底を図り改善していきたい。また「そう思う」と回答した割合も昨年度より上昇している(昨年度は20%)。「そう思う」と自信をもって回答できる教師の割合がさらに増えれば、生徒の数値も上がると思われる。生徒が望ましい学習習慣を身に付けることができるように共通実践していきたい。

生徒質問項目12「家庭学習」に対するでは85%以上が肯定的な意見である。しかし、昨年度よりも数値が若干下がった。また、保護者質問項目８については肯定的な意見が67%と、生徒と保護者間で「家庭学習」に対する意識のズレが見られる。これについてはメディア使用が影響していると考えられる。生徒がより家庭学習に集中して取り組むことができるよう、家庭学習の題材や内容について生徒間で交流する機会を設定したり、より集中できる学習環境について家族で考える話題を提供したりしていきたい。

【年度（→次年度）】

生徒質問項目11では、全校の肯定的な意見が88%と若干数値が上がった。これは先生方で「東中学び方の約束」を共有し、夏休み明けや日々の授業など機を逃さず、「東中学び方の約束」の再確認や指導をしてきた成果であると考えられる。今後は、学習委員会等で、学び方の約束を確認したり、向上を呼びかける活動をしたりと、生徒主体で学習に対する意欲を高めていけるようにしていきたい。

教師質問項目13「東中スタンダードを意識した授業」教師全体の肯定的意見が96%から92%と若干数値が下がった。校内研修や研究授業等の機会を通して、定期的に「東中スタンダード」については共有し、共通実践を目指しているものの、先生方の取組に対する意識の差がうかがえる。これについては、共通理解で終わるのではなく、お互いの授業を見合う場面やそれについて交流する機会を増やしていくことで改善を図っていきたい。

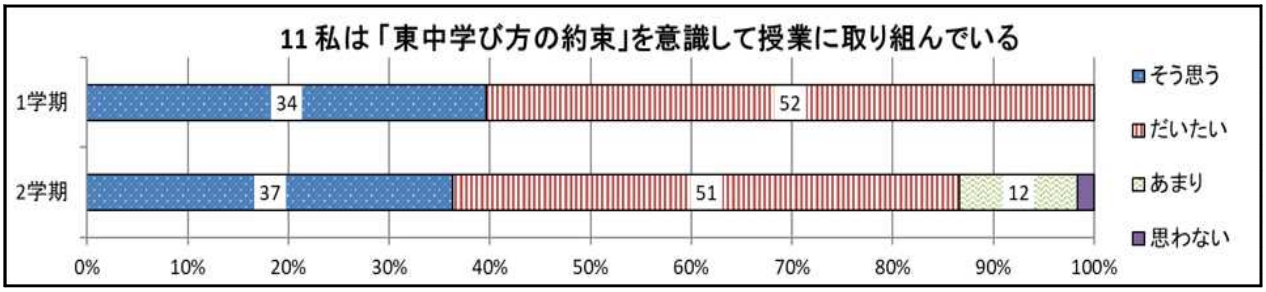
生徒質問項目13「家庭学習ノート」に対しては、肯定的な意見が87%と若干数値が上がった。これは、生徒間で家庭学習の題材や内容について交流する機会を設定したり、見本となるノートを教師が紹介したりして、家庭学習の質を向上させようと取り組んだ成果であると考えられる。しかし、依然として家庭学習の取組に課題がみられる生徒が一定数いることも事実である。そういった生徒への支援や具体的な取組についての指導をしていく必要がある。また、生徒質問項目12「家庭学習」に対しては、肯定的な意見が89%から86%と若干数値が下がった。これは、保護者質問項目の「メディア使用のルール」の数値も下がっていることからメディアの使用が大きく影響していると考えられる。生徒指導部と連携し、ネット利用についての指導、メディア使用のルールの確認や、好ましい家庭学習の在り方、タイムマネジメントについて指導、啓発し、改善を図っていきたい。

評価指標	実践課題	主な取り組み	自己評価Ｂ 前期	自己評価Ｂ 後期
５基本的な学習習慣	(8) 望ましい学習習慣の確立	東中スタンダードの定着と深化	３	３
６充実した家庭学習	(9) 効果的な家庭学習の支援	目的意識をもたせた家庭学習への支援	３	３

【評価指標５】基本的な学習習慣

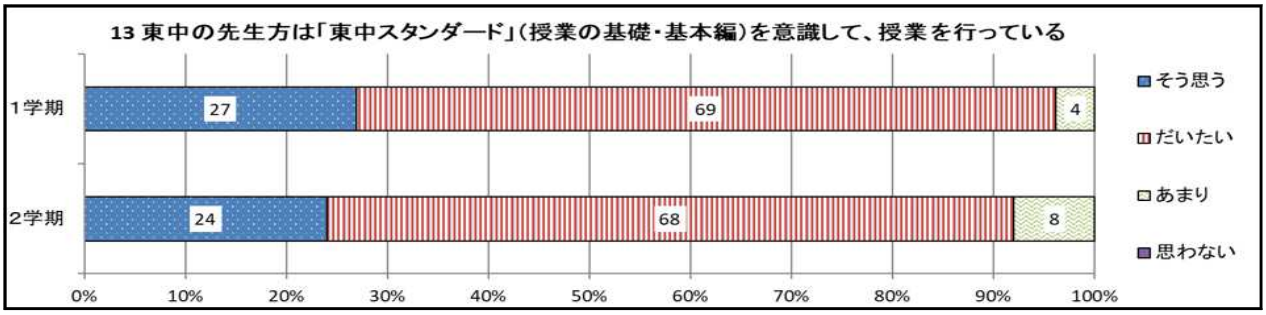
生徒

１学期
3.19
↓
２学期
3.25



教師

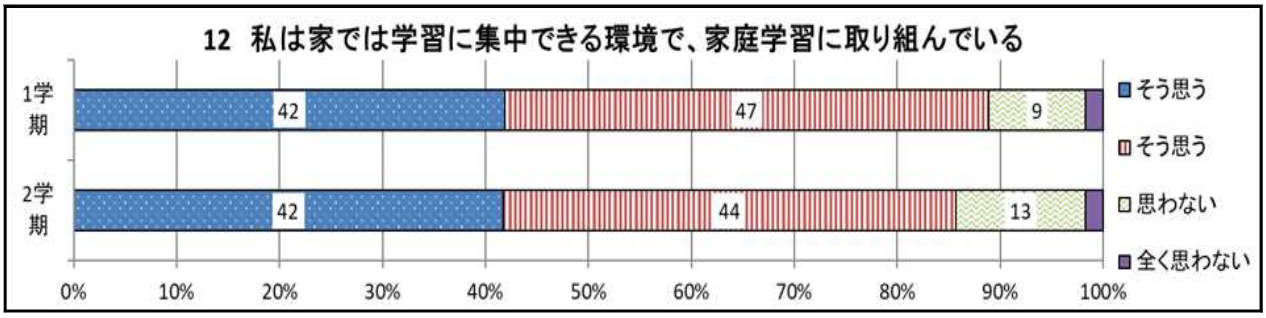
１学期
3.23
↓
２学期
3.16



【評価指標６】充実した家庭学習

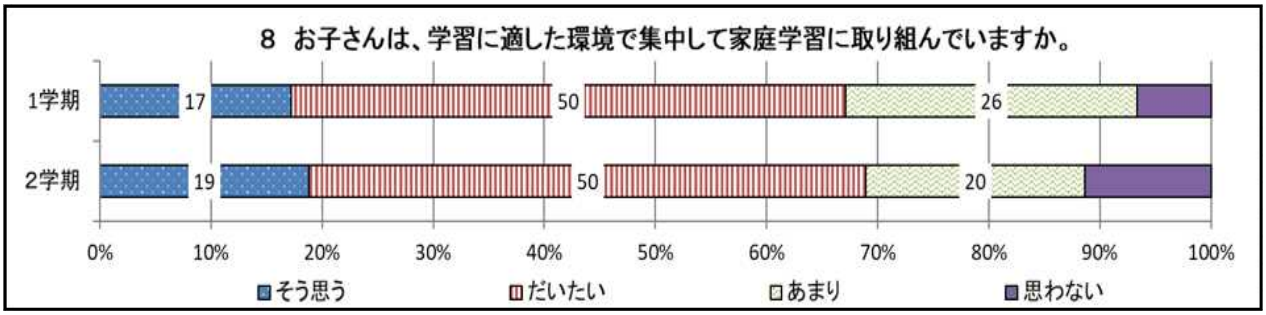
生徒

１学期
3.29
↓
２学期
3.26



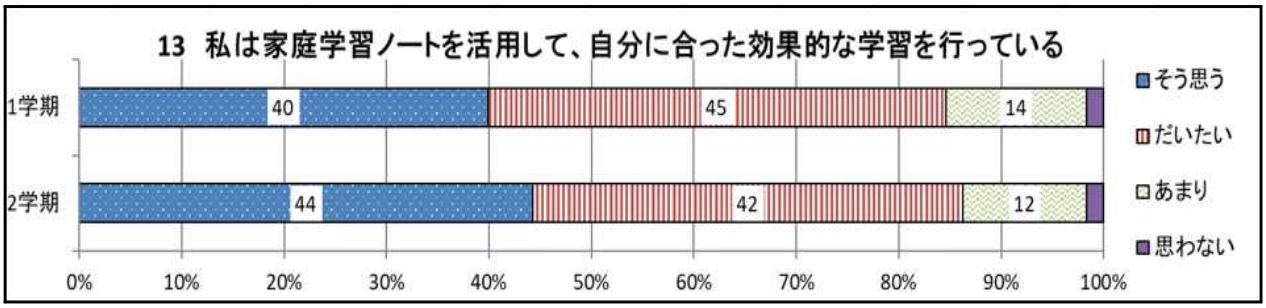
保護者

１学期
2.78
↓
２学期
2.76



生徒

１学期
3.23
↓
２学期
3.29



Ⅳ　教師の研修

学校の状況		自己評価Ａ	運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
学校の研究課題の解決に取り組むとともに、自らの指導力を高めるための研修に努め、指導力の向上が図られている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	生徒の学びに向かう姿勢がよかった。また、先生方の表情もよかった。後期に向けて、研究主任を中心に研修を重ね、さらに先生方の資質能力を向上させてほしい。
	後期	おおむね良好	良好	子どもの姿から、授業のよさや研究の成果が見られ、先生方が研鑽を積んでいることが分かる。まだまだ伸びしろはあるので、若手の先生方の指導体制をテーマとし、来年度のさらなる頑張りに期待したい。

自己評価の概要と学校の改善策

【前期（→年度）】

今年度も、４月の学習集会において「鳳凰タイム」について、教師と生徒で共通理解し実践してきた。教師質問項目14の「鳳凰タイムにより、生徒の学び合い、高め合いを引き出している」には88%が肯定的な回答をしている。しかし、去年の数値から下がっていることからは、鳳凰タイムをただ行うだけでなく、より効果的な学び合いの場にしたいという教師の思いが生まれていることがうかがわれる。生徒の主体的な学びを創る授業づくりの核となる「鳳凰タイム」の実践に力を入れ、学ぶ楽しさや喜びを味わいながら、確かな力を身に付けさせる授業を全職員一丸となって目指したい。

５月の校内研修会では、共通実践事項である「魅力ある導入の工夫」「鳳凰タイムの深化」について研修を行った。教師質問項目18、2の「研究部報、外部の研究会の報告や情報、自校の研修会で学んだことを指導力の向上に生かしている」や「授業を振り返り、課題を把握し、授業改善につなげようとしている」の数値は、どちらも肯定的な回答が100%であった。授業改善に積極的に取り組みたいという教師集団の気概を大切にしながら、今後も教科の枠を越えて研修を進めていきたい。

【年度（→次年度）】

教師質問項目14の「鳳凰タイムの取組」に関する数値が前期より上昇し、肯定的な回答の割合が100%となった。「鳳凰タイム」を軸に授業改善に取り組もうとしている本校職員の意識の高まりが感じられる。また、「『なぜ』『どうして』という必要感やワクワク感のある導入の工夫や課題の設定をし、生徒と共に学習課題をつくっている」の肯定的割合が、前期の92%から96%となり、全職員で同じ方向を向いて共通実践事項に取り組んだ姿が読み取れる。生徒アンケートでは、「共感的協働力」に関する項目が前期より上昇した。「共感的・協働的に学び合う生徒の育成」を掲げて取り組んでいる本校の研究が、少しずつではあるが生徒に定着していることが読み取れる。一方で、各種調査や定期テスト等を見ると、東中生全体が「確かな力」を身に付けられているとは言い難い現状である。授業における教師の指導の工夫を継続し、学ぶ喜びや笑顔と、確かな資質・能力を身に付けさせることを両立させられるよう、更に研鑽を積む必要がある。

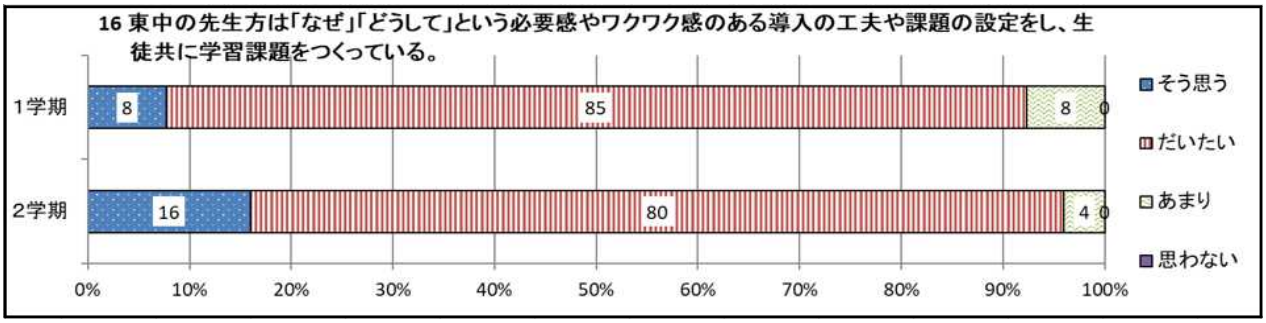
各種指定訪問等では、教科の枠を越えて、事前の指導案検討会や、授業研究会に熱心に取り組む職員の姿が見られた。他教科であっても真剣に研修に参加し、自教科の授業へ還元しようとする気概が感じられた。１月の校内研修会では、各種アンケートや調査の結果をもとに、生徒に「確かな能力・資質」を育むための方策について、協議を行った。生徒のために、常に前に進み続けられるよう、授業の質向上を目指して全職員で取り組んでいきたい。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価Ｂ 前期	自己評価Ｂ 後期
７授業改善の推進	(10)単元構想力の向上 魅力ある導入の工夫	各教科の見方･考え方を生かした授業構想 諸検査データの分析と活用	３	３
	(11)共感的・協働的な学びの追究	教師のコーディネート力の向上 鳳凰タイムの深化　振り返りの充実		
８研修の実施及び活用	(12)研究会を通しての指導力の向上	研修成果の情報提供 効果的な研究会の実施	３	３
	(13)各教科での取組の共有	教科部会の充実 教科部会と学年部会の連携		

【評価指数７】授業改善の推進

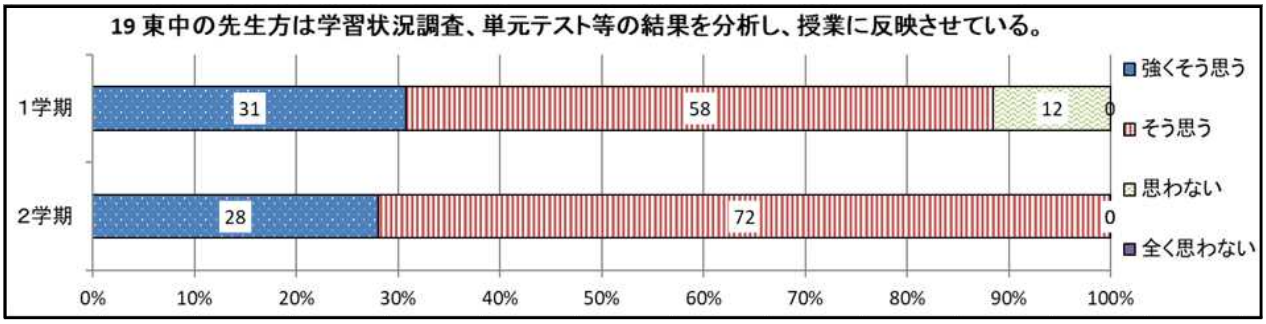
教師

１学期
3.00
↓
２学期
3.12



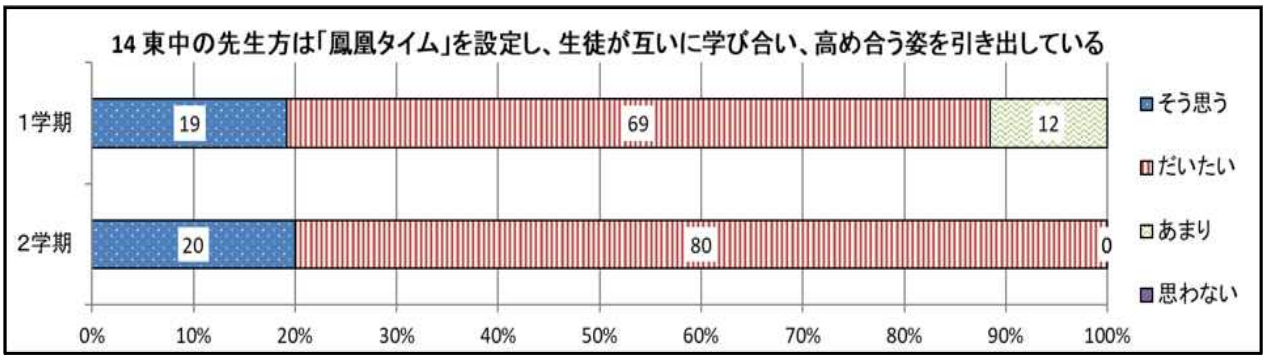
教師

１学期
3.19
↓
２学期
3.28



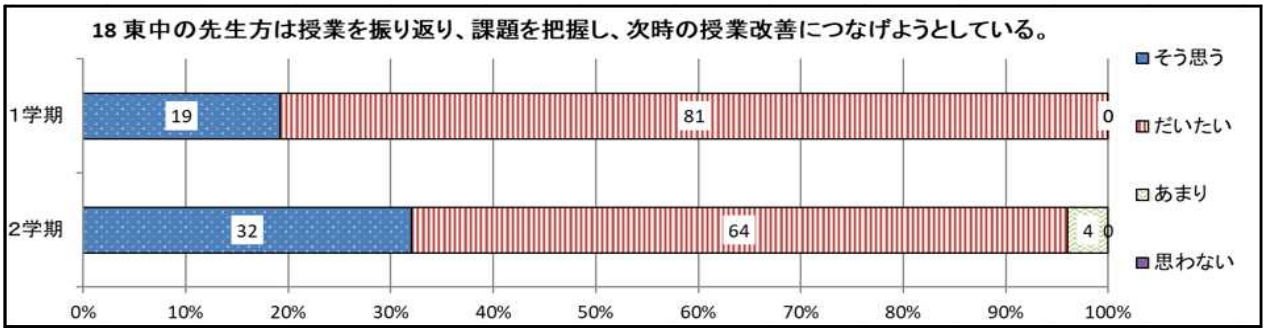
教師

１学期
3.08
↓
２学期
3.20



教師

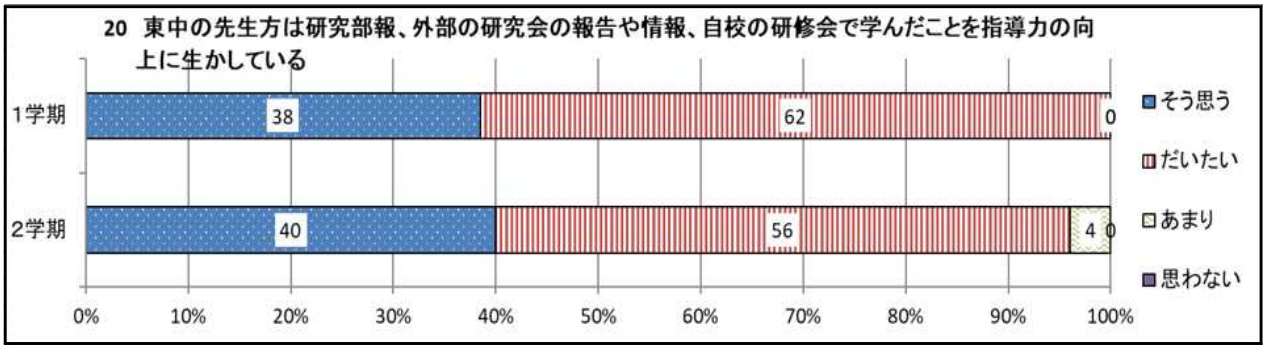
１ 学 期
3.19
↓
２学期
3.28



【評価指数８】研修の実施及び活用

教師

１学期
3.38
↓
２学期
3.36



Ⅴ　保護者・地域との連携

学校の状況		自己評価Ａ	運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
学校の取組が分かりやすく保護者や地域に伝えられ、地域の教育力が効果的に活用されている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	地域人材や地域の企業や施設などをさらに活用して欲しい。そのためにも地域支援コーディネーターや学校運営協議会と協力し、チームとして取り組み、学校や地域の活性化に期待したい。
	後期	おおむね良好	おおむね良好	学校長の迅速な判断から、必要な情報を保護者や職員に伝えられている。また、様々な活動に地域の人材を活用している。地域の活性化のためにも、来年度はさらに地域との連携を密にしてほしい。

自己評価の学校の改善策

【前期（→年度）】

保護者質問項目10の「お家の方は、学校だよりや学年通信、ほけんだより等に目を通していますか」については、肯定的な回答が全校で92%であり、学校や学年の様子が概ね伝わっている状況にある。現在の保護者のスマートフォン所持率はほぼ100%と考えられる。今後は紙媒体での配付と、メール配信システム利用しデータでの配信をすることで、さらに保護者の目に届くと思われる。

保護者質問項目11の「ＰＴＡは主体的に活動している」については、肯定的な回答が全校で93%であり、昨年度よりも数値が上がっている。コロナ禍で活動が制限されていることもあるが、運動会の早朝作業にはＰＴＡ会長の声かけで数名の保護者が集まってくださった。２学期は昨年度からＰＴＡ保体部が主催した「ちょっことボランティア」などがあり、ますますＰＴＡ活動の充実が期待される。

教師質問項目24、保護者質問項目12の「学校は、地域人材の活用、職場体験・訪問等、地域と連携した活動に取り組んでいると思いますか」については、肯定的な回答が教師が90%、保護者が全校で98%であり極めて良好である。今年度は、ＰＴＡ親子講演会に本校保護者でもいらっしゃる鳥潟幸夫様に講演していただいた。気象予報士・防災士の鳥潟様に大館の気象について講演していただいたことは生徒、保護者に大変好評であった。今後も、地域人材を積極的に活用していきたい。また、２学期の行事でもある東中ボランティアを通し、地域貢献やボランティアの意義を理解させながら、東中生が地域を活性化する活動に取り組ませたい。

【年度（→次年度）】

保護者質問項目10については肯定的な回答が91%、平均値も僅かであるが上向きである。また、教師質問項目22のについては肯定的回答が100%、平均値も3.67と高い結果であった。このことからも、学校からの連絡は紙媒体での配付とメール配信システム利用をすることで、さらに保護者に周知できることが予想される。

保護者質問項目11については後期も肯定的な回答が全校で93%であったが、前期よりも平均値が下がっている。しかし、教師質問項目23については前期よりも平均値が上がっている。要因としては、ＰＴＡ保体部が主催した「ちょっことボランティア」の取り組みが保護者に周知できていなかったためと思われる。これは学校報や学年通信などを通しての呼び掛けや報告が足りなかったと思われる。

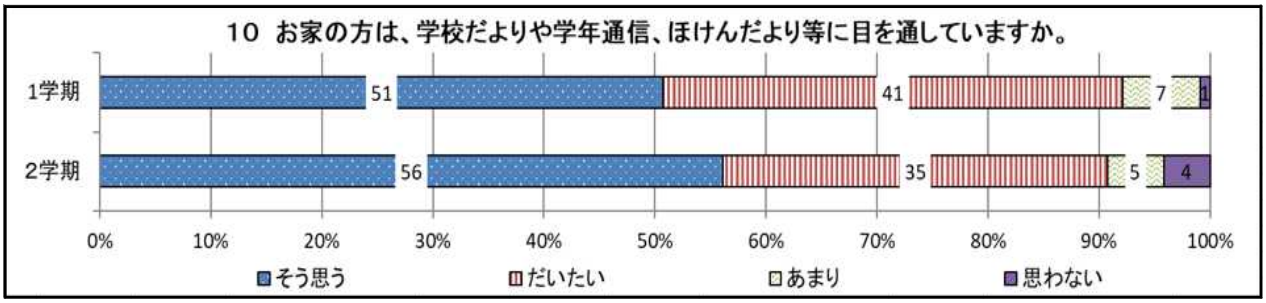
教師質問項目24、保護者質問項目12については、肯定的な回答が教師が89%、保護者が全校で97%であり極めて良好である。後期は東中ダンスプロジェクトに、本校卒業生の協力をお願いしたり、落ち葉拾いボランティアに参加するなど、地域との繋がりが多く見られた。来年度も引き続き地域との繋がりを継続、発展させ、地域における東中生の自己存在感や自己有用性を味わわせていきたい。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価Ｂ 前期	自己評価Ｂ 後期
９保護者との連携	(14)教育方針や教育活動についての効果的な発信	教育活動等が見える各種だよりの発行 ホームページ、連絡メールの活用	３	３
	(15)行事や諸活動の工夫	保護者の活動を通した協力体制づくり 保護者の主体的な活動のための支援		
10地域の教育力の有効活用	(16)地域学校協働本部事業等を生かした教育活動	地域人材の効果的な活用 学校と地域住民等との双方向の連携 地域コーディネーターの活用	４	４

【評価指標９】保護者との連携

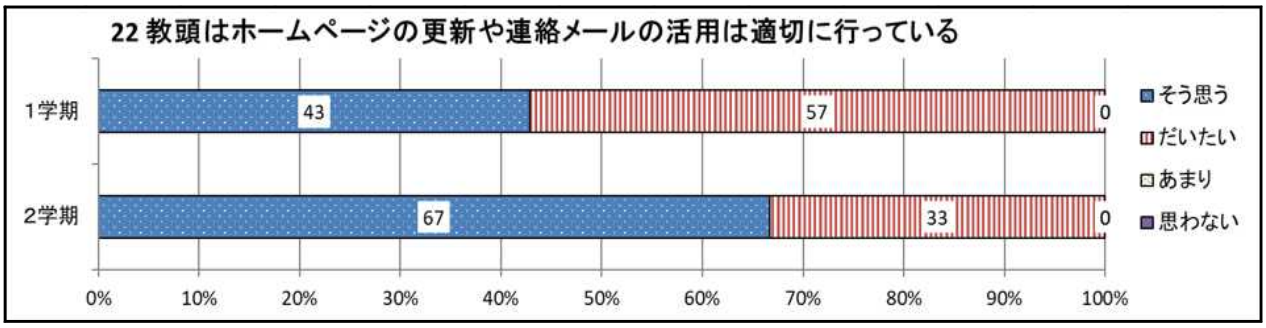
保護者

１学期
3.42
↓
２学期
3.43



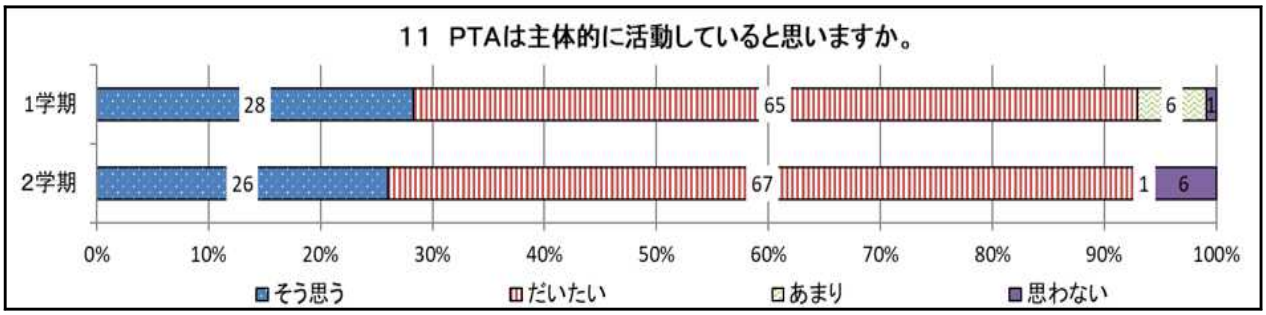
教師

１学期
3.14
↓
２学期
3.26



保護者

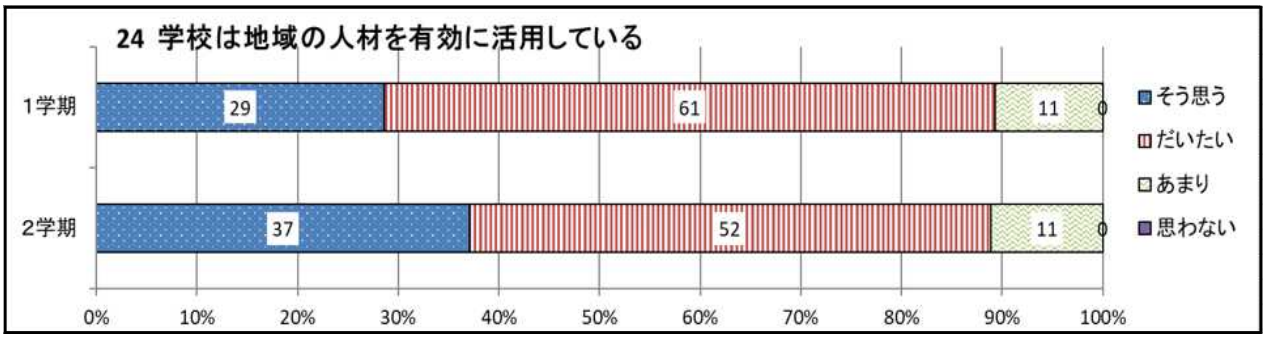
１学期
3.20
↓
２学期
3.13

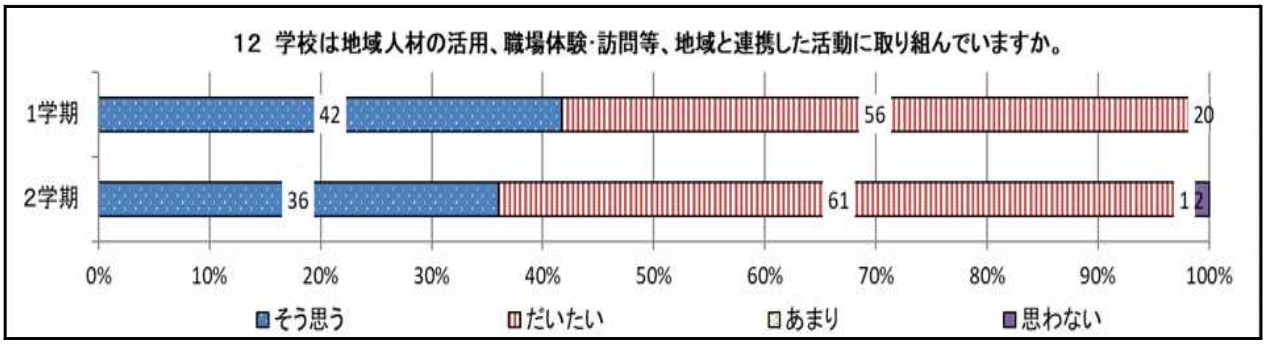


【評価指標10】地域の教育力の活用

教師

１学期
3.18
↓
２学期
3.26



保護者

１学期
3.40
↓
２学期
3.32